

## 第5回調布市社会教育計画策定ワーキンググループ 議事録

1 日 時 令和4年9月22日(木) 午前9時30分から午後11時30分まで

2 会 場 調布市教育会館3階301研修室

3 出席者 9人

篠崎議長, 宮下副議長, 荒井委員, 進藤委員, 田村委員, 西牧委員, 新田委員, 毛利委員, 矢幡委員

4 事務局

社会教育課職員5人(中川課長, 小川係長, 金中主査, 中村主事, 林主事)

○篠崎議長

それでは会議を始める。まずは, 事務局から資料の確認をお願いしたい。

○事務局

配付資料を確認させていただく。

資料1 調布市の社会教育が目指す将来像

資料2 調布市基本構想素案

資料3 社会教育計画素案の案

資料4 調布市教育プラン策定検討委員会 第3回 で出た意見

配付資料の確認は以上。不足の資料はないか。

また, 今回は配付していないが, 先日メールで送付した決算の資料について意見はあるか。  
—不足, 意見ともになし

○篠崎議長

10月4日に社会教育計画の着地点を考えている。今回の会議で, 洗いざらい明らかにしていきたいと考えている。

また, パブリックコメントの他に, 市民を公募し, 意見を伺う場をもちたいと考えているが, 意見はあるか。加えて, 公民館や図書館とも話し合い, 計画の内容を検討していきたいと考えている。併せて意見はあるか。

—意見なし。

それでは, 議題に入る。

○事務局

資料は, 委員の皆様からいただいたご意見と, 事務局からご提案するたたき案となっている。

意見としては, 副議長と田村委員からは, 社会教育に関する市の基本的な考え方は変わらないことや, 前回計画策定時に丁寧に作られた目標であることから, 目標を維持するという案が出された。

また, 新たな案として, 荒井委員, 西牧委員, 毛利委員から案が提出されている。事務局

としては、新たな基本構想素案の文言を元に、たたき台として案を提示している。加えて、参考までに、資料2として、調布市基本構想素案をお配りしている。これらをもとに、今後4年間の調布市の社会教育が目指す将来像を議論いただければと思う。

○篠崎議長

いかがか。

○新田委員

資料2，調布市基本構想素案の7頁，「多様」という表現が重複している。また，産学官民が主体ではない。主体は市民である。おかしいのではないか。

○宮下副議長

現在は，資料1，社会教育計画について検討を進めていきたい。

○新田委員

市全体の将来像は変わっているのに，社会教育計画の将来像は維持するという方向で良いのか。

○宮下副議長

社会教育の考え方自体は変化していないため，現行の将来像を維持することは問題ないと私は考えている。説明文は変えて構わない。

○新田委員

つまり，基本構想と全く連携していない将来像を使うのか。それで良いのか。

○宮下副議長

一意見である。

○荒井委員

私の案について説明する（学びで心満たされ生まれた笑顔が夢と希望にあふれた彩りある社会を築く）。

調布市の基本構想の「彩り」という表現を活用した。また，「笑顔」という表現は，現行のものをベースに盛り込んだ。

説明文については，社会教育計画は市民が主役であるということが軸にあると考え，盛り込んだものとした。

○毛利委員

学びを通して社会に参画するというのが伝わる標語になるようにした（学びを通し市民による市民のための社会づくり・地域づくりに貢献する）。受け身ではなく，積極的につくっていくという要素をキーワードとした。

○田村委員

標語そのものは思い浮かばなかったが，現行のもので問題なく補えていると感じた。ただ，基本構想をみても，彩りという言葉の意味がよく分からない。

○宮下副議長

私は，現行の将来像を維持継承するというのが一つの方法と考えた。

○進藤委員

今までのものでも良いと思った。しかし、まちをつくる、地域を広げるといった、目の前の身近なことであるという意味合いの表現を入れてはどうか。

彩りとは、多様性のことである。共生社会をつくることは、基本構想の大きな柱の一つで、この説明文では読み取れないかもしれない。私自身は、彩りという表現にこだわっているわけではない。

みんなでつくる、地域でつくる、社会で築くという表現を入れる必要があるのではないかと感じた。

○矢幡委員

前回と同じで良いと思っていたが、社会状況の変化に焦点をあてたものでも良いと思う。

○篠崎議長

事務局からたたき台の説明をお願いしたい。

○事務局

基本構想は、市民の意見がかなり反映されてつくられている。このことから、基本構想をベースにたたき台とした。

社会教育を通じて、街の活性化が図られるという意味で彩りを使ったが、多様性という視点が抜けていた。

○宮下副議長

つくるや学びなど、外せない表現はあるか。

○田村委員

彩りを入れる場合、説明文で補う必要があるのではないか。意味がわかりづらいため、浸透していかないと思う。

○荒井委員

説明文で補う必要はあると思う。多様性はもちろん、市民参加も含めた意味合いで彩りが使われているのではないかと思う。

○進藤委員

笑顔溢れるは、前の基本構想で使われていたものである。敢えて今回も使う必要はないのでは。

○新田委員

社会教育を目標にするのか。社会を目標にするべきでは。社会教育を目標にするのは違和感がある。

○宮下副議長

社会教育を通じて、というのはどうか。

○新田委員

良いと思う。

○篠崎議長

続きは、西牧委員が来てから行う。先に進む。事務局に説明をお願いする。

#### ○事務局

こちらは、8月16日にお示ししたものについて、文言を整理したほか、8月23日及び9月6日の二日にわたり、リーダー・副リーダーからいただいたご意見を踏まえて、修正した計画素案の案となっている。

資料の見方としては、前回と同様、下線が引かれた箇所が現行計画からの変更箇所となっており、文字が反転しているところが8月16日のワーキンググループ会議以降の変更点になっている。

主な修正点についてご説明する。

まず、まえがきをリーダー副リーダーの御意見をを受けて現在の形まで修正を加えている。次に目次をご覧ください。

4-4 「学習成果を地域へ還元する場づくり」となっているが、これは「学習成果を発表する場づくり」からお二人の意見をもとに修正している。

そのほか、資料編の構成を変更している。今回新たに設けたのは、社会教育委員の活動記録と、次期調布市社会教育計画策定に向けたアンケート編である。資料編については、パブリックコメント手続きで公表しないため、今回はお付けしていない。また内容を調整できたらご覧いただければと思う。

1章に入る。ワーキンググループ会議やリーダー・副リーダーからのご意見で、現代的な課題に関する記載が足りないとのご意見があったことから、3の策定の視点に、課題などを表現することとしている。

2章の変更点としては、3-2 郷土の歴史・文化を学習する活動の推進の説明に芸術についての記載が出来ないか、とのご意見をいただいたので、今後郷土博物館と調整していく。また、3-3 団体の自主的な活動の支援について、リーダー副リーダーからご意見があったため、文言を追加した。

3-4 学習を通じた市民参画の推進にある「調布っ子“夢”発表会の実施」について、皆様からいただいたご意見をもとに修正している。

4-2 社会教育関連施設の整備と活用について、ご意見があったので、老朽化対策に加え、ICT技術への対応が重要である旨記載した。

主な修正点は以上。

また、9月16日（金）午後6時30分から開催された、「調布市教育プラン策定検討委員会第3回」で出されたご意見を簡易的にまとめたものを資料としてお示ししている。参考までにご覧いただければと思う。

今後の流れとしては、9月6日のリーダー・副リーダーとの打合せと本日いただいたご意見及びこの策定検討委員会で出たご意見を合せて、各課に修正点等がないか確認を依頼し、計画素案の最終確認を依頼する予定でいるので、そのやりとりの中で変更・修正を行う場合

があるが、10月4日の社会教育委員の会議でパブリックコメント前の最終案として御確認いただく予定である。

本日は、リーダー・副リーダーとの打合せで積み残しとなった点があり、委員の皆様にご意見を伺いたいと思う。

ご検討いただきたい箇所は、2章の目標2「多様な人々の社会参加を図る学び」の区分けが古くなってきているのではないかと、特に「2-1 障害のある人とともに歩む学び」という表現を今後も使用するのはいかがかと、という点。お二人からは、「障害のある人」という表現を再考してはどうかとのご指摘があり、「社会的に不利を被っている人」という表現はどうか、とのお話があった。この部分については、実際に行っている事業との兼ね合いもあり、表現が難しく、委員の皆様にご意見を伺いたいということになったので、ご検討をお願いしたい。

事務局からは以上。

○宮下副議長

障害について、個人の運動機能に注目するのではなく、社会的文化的視点で捉えてはどうかと思ひ、提案した次第である。

一概に障害の有無について個人の属性を述べるのは現代的でないのではと思ひ、気になった。このことについて変更を加えると、計画の構成も大きく変わってくる。

○進藤委員

障害は、その人の能力に問題があるのではなく、社会モデルについて考えるのが中心になってきている。高齢者や、車椅子など、ある日突然、障害の当事者になる可能性が誰にでもある。

障害のある人など、と書いてあれば別だが、障害者は法律用語でもあり、法律上で権利を保障する言葉でもある。文言を変更し、障害の意味合いがぼやけると、権利の主張が難しい場面があるかもしれない。ただ、計画に反映するときにはどうか、と言われると判断が難しい。障害のある人を別枠にするような書き方は良くないと思う。障害という言葉は無くさず、説明文を付けるなどしたらどうか。

○新田委員

障害の定義を明らかにすれば良いのではないかと。

○宮下副議長

タイトルは、障害の表現は残し、説明を加えるという方向で修正するというので良いのではないかと。

○篠崎議長

意見はあるか。

一意見なし。

○事務局

これまでの加筆修正で共生社会の実現に向けた視点は、盛り込んでいるつもりである。も

し、具体的にアドバイスがあればいただきたい。

○篠崎議長

分かりやすくした方が良い。

○事務局

現代では、障害はこう意味で捉えられているという一文を入れるイメージで合っているか。

○篠崎議長

問題ないのでは。

○新田委員

病気か病気でないかなど、明確な差はない。線引きは難しい。

○篠崎議長

この説明は、文量があっても良いのでは。

○進藤委員

障害者手帳を持っているから障害者ということではない。社会参加しやすい人が増えるために、そういうニュアンスが入ると良い。

○篠崎議長

西牧委員。資料1について、ご意見の説明をお願いしたい。

○西牧委員

以前、この会議で長らく議題になっていた、社会教育施設の利用者の固定化について問題意識があり、「学びが広がり」という表現を入れた。社会教育の実現によって、コミュニティづくりを目指すという視点から「人がつながり」という表現を入れた。学ぶだけでなく、市民が社会やまちをつくるという視点から「みんなの願いでつくる」という表現を入れた  
(学びが広がり、人がつながり、みんなの願いでつくる街)

○篠崎議長

まず、外せない文言を選んでいく。「学び」は残したい。よろしいか。

次に、「つくる」を残していく。とりあえず、全員の了承を得たものだけ残していく。

○矢幡委員

市民がつくる、としたらどうか。

○西牧委員

築くという表現もある。

○宮下副議長

基本構想は、つくるとなっている。

○荒井委員

市民でつくるという表現は外せない。

○篠崎議長

みんなでつくるという言い方もある。

- 毛利委員  
築くは固い。市民よりも、「ともに」の方が身近で良いのでは。
- 西牧委員  
ともに動詞的で、一緒にやるという感じがする。
- 篠崎議長  
ではともに採用で良いか。
- 荒井委員  
西牧委員の案が全てを網羅している感じがする。
- 毛利委員  
西牧委員の案をもっとアクティブにすることもできると思う。広がる、つなげる等の表現を使ってはどうか。
- 西牧委員  
みんなの願いでつくるは、ともにつくるに変えることができると思う。  
ともにつくるだと、字数のバランスが気になる。
- 新田委員  
ともにつくるまち、調布とするのはどうか。
- 宮下副議長  
「ともに学び、ともにつくる、人がつながる彩りのまち、調布」はどうか。
- 矢幡委員  
笑顔、彩りなどの色合いが欲しい。
- 進藤委員  
荒井委員の意見にあるように、彩りの説明を入れ、笑顔につなげていけば良いのではない  
か。
- 篠崎議長  
「ともに学び、ともにつくる、笑顔溢れる、まち調布」はどうか。
- 荒井委員  
ともに学び、ともにつくる、というのは語呂が良いと思う。
- 進藤委員  
つながりという表現は入れたい。社会教育は、つながることを通じてつくるという側面が  
強く、そこが重要である。
- 新田委員  
ともに学び、ともにつくる、みんなの願いでつくるまち
- 西牧委員  
つくるが重複している。
- 荒井委員  
ともに学ぶことで人はつながる。

○田村委員

学びが広がりという表現がすごく良いと思う。ともに学び、ともにつくるは、固定の層への働きかけに感じる。説明を受け、わかりやすいこの文言が好きになった。

○西牧委員

直近の実現可能な目標という意味で、学びを広げていくという文言を入れている。

○荒井委員

「学びが広がり、人が繋がり ともに彩るまち、調布」はどうか。

○宮下副議長

ともにつくる 彩りのまち 調布

○篠崎議長

みんなの願いでも良い気がしてくる。

○荒井委員

彩りは、説明のところで補ってくれても良い。

○進藤委員

説明文には、笑顔など、落ちてしまった表現を入れる必要がある。

○宮下副議長

街の漢字にはこだわりがあるか。

○西牧委員

特にない。ひらがなで良い。つくるもひらがなで良い。

○荒井委員

調布と書いてまちと読むのはどうか。

○篠崎議長

あまり格好つけない方が良い。

では、「学びが広がり、人がつながり、みんなの願いでつくるまち」で決まりとする。

○事務局

説明文も公開されるため、御意見いただきたい。この場で難しいようであれば、こちらで素案を作成し、メールにてやり取りできればと思う。

○宮下副議長

それでは、素案の最終案ということで、頭から内容や文言について確認していく。まず、まえがきについて、意見はあるか。将来像については、今回の話合いを踏まえて変わらと思う。

○西牧委員

「市を取り巻く状況や中教審の指摘を受け、調布市の社会教育は・・・」の「や」が何を結んでいるかわかりにくい。「中教審の指摘を受け、市を取り巻く状況を踏まえ」とした方が良いのではないかと。2つの並びが落ち着かない。「市を取り巻く状況や中教審の指摘を踏

まえ」でも良い。

○篠崎議長

ではそのように事務局は対応していただきたい。

○宮下副議長

では、第1章について、意見はあるか。

一意見なし。

○宮下副議長

では、第2章はどうか。枠の中は各課で検討を重ねている箇所であるため、主に、目標の下の記述についてご意見をお願いしたい。

○進藤委員

学校図書館と公共図書館の連携について、図書館ガイダンスをコロナでやれていないのかもしれないが、特別支援学級、学校にもやってほしい。特別支援学級や学校は手を挙げないとこの対象とならないようである。このことを知らない先生もいる。このことが落ちないような表現を含められないか。

○宮下副議長

このことは、今回の意見も併せて事務局から図書館に打診するとのことだった。

○事務局

このことについて、図書館と指導室から変更無しで回答を得ているが、再度確認する。

○宮下副議長

では、目標2について、意見はあるか。

○進藤委員

図書館の計画に、読書推進計画が入っていると思うが、図書館利用の支援に関する内容がある。障害のある人が、利用しやすい支援がどこかに入ると良い。外国にルーツを持つ方も同様である。英語の書籍もあるはず。国際交流につながる学びが、外国の人が利用しやすくなるような内容を含めてほしい。

○西牧委員

以前もそのような趣旨でお話ししたが、どこに含まれているのか。わかりにくい。

○進藤委員

現状、主語は私達で、日本語が不自由な人が主語になっていない。

○事務局

前回、各公民館に照会をかけたところ、国籍を問わず参加しやすいものになっているという回答だった。

外国籍の方の暮らしやすさを視野に、事業を行っていきたいと考えているとのことだった。

○宮下副議長

今、そのような方向性が見えているのであれば、説明文にそれを盛り込んでどうか。

○西牧委員

目標2-2について、国際理解を進めるのは日本人側の話。外国人利用者が利用しやすいようにするといった文言がある。家庭教育セミナーなど、手話通訳だけでなく、外国人向けの通訳をつけるなど工夫をしてはどうか。

○進藤委員

国籍で分けるのではなく、外国籍市民ではなく、母語が日本語でない人としてほしい。

○新田委員

議論するにあたり、皆さんに頭に入れておいてほしい。予算の範囲内でしかできない。あれもこれも入れたい、は難しい。机上の空論になってしまう。郷土博物館に関しては、他市でこんなに学芸員を抱えているところは他にない。

○進藤委員

書いていないことに予算はつかない。

○西牧委員

ボランティア通訳の活用など、工夫はできると思う。習った言葉を使いたい人はいると思う。

○宮下副議長

目標3についてはどうか。

一意見なし。

○目標4についてはどうか。

○進藤委員

質問。公民館はWi-Fiの記述があるが、他の施設ではどうなのか。自習室では、調べものをしたい人もいるのでは。

たづくりの学習室では、フリーWi-Fiが使えない。図書館はどうなのか。あくろすは使える。もったいないと思う。

○宮下副議長

4-2の公民館で限定しているところを広げて、ということになるのか。

○事務局

確認する。10月4日に最終の素案を決めたいと思うが、委員の皆様にはお気づきの点をご指摘いただきたい。

○新田委員

予算は少ない。限られている。予算がつくような書き方をすればよいのではないか。

○毛利委員

これまでの時代とは違う、やりくりが必要になってくるのではないか。学び合いのネットワークなどは特にそう。

○西牧委員

インターネットを活用した、ハイブリットの導入等の実施はどこに書いてあるのか。

○事務局

家庭教育セミナーについては、ハイブリットで実施しているが、計画内で特段触れていなかったため、わかるような記載に変更する。

○篠崎議長

ここまで一通り、確認した。何かあれば事務局に情報を送っていただきたい。社会教育計画については以上。

社会の状況が変化し、収入の少ない市民にしわ寄せがきている。年末にかけてそれが特に顕著になるのではないかと考えている。このことを受け、社会教育委員の会議の議題として扱う必要があるのではないかと考えている。このことについてはいかがか。

では、事務局、スケジュールをお願いします。

11月のことについては、まだ良いのか。

○事務局

11月のことについて説明する。素案について、広く、市民に説明会を実施したいと考えている。

本来は、11月8日が社会教育委員の会議だったが、可能であれば、パブリック・コメント中に実施したいと考えている。市民説明は、夜の時間帯、午後6時から8時までを想定している。

また、公民館運営審議会や図書館から意見を聞き、パブリック・コメントに活かせればと思う。これは、正副議長で対応予定である。

加えて、委員の方の紹介で、レクチャーを受けるような機会をつくれないうかが議長のお話しであったと思う。

○篠崎議長

西牧委員、いかがか。

○西牧委員

具体的にどのような人の話が聞きたいのか。

○篠崎議長

広く、今後の経済の波を把握できるような、実態を把握できるような人が良いのではないかと。

○新田委員

もうちょっと具体的にした方が良いのではないかと。

例えば、子ども食堂の大人版。

○西牧委員

ユアサマコトさんはいかがか。(むすびえ)

○進藤委員

著名な人を呼ぶのは難しいのではないかと。

○篠崎議長

今すぐにじゃなくて良い。お力をお貸しいただければと思う。

○進藤委員

子ども食堂は、今、大人も来ている。市内でということであれば、実態を知っている地域福祉コーディネーターが良いのでは。

○事務局

講師謝礼がないため、地域福祉コーディネーターは有難い。

○進藤委員

認知症カフェなどもある。

○事務局

福祉総務課経由で、やり取りをするかもしれない。情勢をみながら調整できればと思う。

○西牧委員

テーマを限定してくれば、資料を用意し、私が説明することはできる。

○篠崎議長

その他、全体を通して何か意見はあるか。

一意見なし。

○宮下副議長

将来像が決まり、10月4日にはまとまるのではないかと思う。お疲れ様でした。